

III.文献データベースについて（概要）

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ①

2021.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当



この章からは、先行研究調査のもう1つのアプローチとして、文献データベースの活用について紹介していきます。

GoogleやGoogle Scholarは 先行研究調査に向いていない

網羅性の問題

収録範囲が示されていない=何を検索できているか分からない

⇨できるだけ広く文献を探したいという先行研究調査の趣旨との齟齬

検索性の問題

検索条件を細かく設定できない、並び替えや絞り込み機能の弱さ

書誌情報が整理されていない

正確な書誌情報が得られないと選別・入手作業へ進むのが難しい

とくにGoogleは、対象が学術情報（学術文献）に限定されていない

ノイズ（求めている情報=ここでは学術文献で無いもの）がかなり多い

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

文献の「検索」と聞いて、まずGoogleやGoogle Scholarを思い浮かべる方も多かもしれません。

もちろんある程度の検索はできるわけですが、先行研究調査という目的で使用するには、ここに挙げているような問題点があります。

1つ目は、網羅性の問題です。GoogleやGoogle Scholarでは、何が収録されていて何が収録されていないかがブラックボックスです。重要文献が収録対象から漏れている可能性を排除できません。

2つ目は、検索性の問題です。検索条件を細かく設定できなかつたり、並び替えや絞り込み機能の弱さがあつたりします。また、上位に表示される文献がどういう基準で選ばれているのかが分かりません。

3つ目は、書誌情報が整理されていないことです。書誌情報というのは、論文のタイトル、著者名、掲載雑誌名、出版年などのことを指します。インターフェース上の書誌情報がまちまちであるため、検索結果の中から必要な文献を選別作業していくことが難しいです。また、荒い書誌情報のものも検索結果に含まれるため、その情報をもとに文献入手することが難しいものもあります。

対象に応じてツールを使い分ける

学術文献の検索に特化したデータベースが多数存在する

利用が有料のものも多い。阪大で多数契約していて所属者は利用できる

学術文献も対象によって使う文献データベースが異なる

区分としては…研究分野、日本語文献と海外文献、図書と雑誌論文

使い分けの必要がある、というのは一般の情報検索と同じ

カレー屋を検索するサイトと、ホテルを検索するサイトは違う。

「学術文献」という対象の中でも、さまざまな検索サイト=文献データベースがある
ということ意識する。

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

Googleのような検索エンジンとは別に、世の中には、学術文献の検索に特化したデータベースが存在します。

学術文献の中でも対象によって使う文献データベースが異なってきます。
対象の主な区分方法としては、研究分野、日本語文献と海外文献、図書と雑誌論文の主に3つです。

対象による使い分けがあるというのは、一般の情報検索と同じです。
例えば、美味しいカレー屋さんを検索するサイトと、旅行先のホテルを検索するサイトは違いますよね。

「学術文献」という対象の中でも、さまざまな検索サイト、すなわち、文献データベースがある、ということ意識してください。

文献データベースの機能

文献データベースのメイン機能

文献情報（＝書誌情報）を収集・整理して提供すること

付加価値としてのPDFファイルやフルテキストリンク

あくまでそのデータベースが提供できる範囲でのファイルやリンク

大阪大学で読むことができる論文が、全て利用できるようになっていない

大阪大学で読むことができる論文＝良い論文とも限らない

先行研究調査では、検索と入手を切り分けて考えよう！

文献データベースでは、まず「検索」に専念し、書誌情報を得る

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

ここで、文献データベースの機能について、きちんと理解してもらいたいことをお伝えします。

まず第1に、文献データベースのメインの機能は、収集した書誌情報を整理して検索する人に提供する、ということです。「書誌情報」というところがポイントです。

最近は、文献データベース上でPDFファイルを読めることが多いのですが、それはあくまで付加的な機能です。

文献データベース側で、大阪大学で読める全ての論文のPDFファイルを掲載している訳では無いので注意しましょう。

また、そもそも、大阪大学で読むことができる論文が良い論文とも限りません。その研究分野で鍵となる論文が大阪大学では読めない、ということもあるでしょう。

先行研究調査では検索と入手を切り分けることが大切です。

文献データベースでは、まず「検索」によって、必要と思われる文献の書誌情報を得ることに専念しましょう。

IV.文献データベースによる 日本語論文の先行研究調査 －CiNii Articlesを事例に



それでは、具体的に、データベースを活用した日本語論文の先行研究調査方法についてご案内していきます。

適切なデータベースの選択：雑誌論文

全分野型 or 特定分野 / 日本語文献 or 海外文献 のマトリクス

| 分野 | 国内論文 | 海外論文 |
|---------|---------------------|--------------------------|
| 全分野 | CiNii Articles | Web of Science Scopus |
| 国文学 | 国文学論文目録データベース | |
| 日本語学 | 日本語研究・日本語教育文献データベース | |
| 経済学 | | EconLit |
| 教育学 | 教育研究論文索引 | ERIC |
| 社会学 | | SocINDEX |
| 医学 | 医中誌Web | MEDLINE |
| 自然科学・工学 | J-DreamIII | |

特定分野のデータベースの
ほうが一般的に、
・その分野に関して、収録論文が多い
・より高度な検索が可能
(シソーラス等⇒補遺参照)

これらは一例です。
附属図書館Webサイトの
データベース一覧を一度
チェックしてみてください。

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/dblist/>

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

雑誌論文の情報を検索するためのデータベースは、2つの区分から選択するのが基本となります。

1つ目の区分は、全分野型か特定分野型かというもの。2つ目の区分は国内論文か、海外論文かというものです。

全分野型があれば特定分野型のデータベースは要らないのでは？と思われるかもしれません。特定分野型のデータベースのメリットとしては、全分野型よりもその分野ではより多くの論文を収録していたり、より高度な検索機能があったりする点です。例えば、同じキーワードを入力したときにどんな論文がヒットしてくるか、を見比べてみるのもいいでしょう。

自分の検索対象に合ったデータベースを使っていきましょう。

CiNii Articles とは

日本語論文を探すための文献データベースの代表格

主に日本語の雑誌論文が対象
分野を限定せず、幅広く収録
検索機能は残念ながら強くないので、
工夫して利用する必要がある（後述）



<https://ci.nii.ac.jp/>

具体例としてCiNii Articlesを使う理由

とくに人文社会科学系では特定分野型の日本語論文データベースが無い分野がほとんどで、実質的にCiNii Articles一択であるため
この後紹介する検索の考え方は他のデータベースを利用する際にも通じる

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

ここからCiNii Articlesというデータベースを使って、具体的に日本語論文検索の方法を見ていきます。

CiNii Articlesは、1つ前のスライドの表にあったように、全分野型で、主に日本語の雑誌論文を対象としています。

文献の中でも、事典類や学術書などの図書は検索対象ではなく、雑誌論文のみを対象としたデータベースです。

とくに人文社会科学系では、特定分野型の日本語論文データベースが無い分野がほとんどで、実質的にCiNii Articles一択であるため、このデータベースを使って説明します。

具体的な操作方法というよりも、検索の際のコツを中心に紹介しますので、他のデータベースも同じような考え方で活用していただくことができます。

検索例題

SNSとヘイトスピーチの関係性についての先行研究調査

—対象の雑誌論文はひとまず日本語のもののみ

| | | |
|-------------|------|--------|
| 論文検索 | 著者検索 | 全文検索 |
| SNS ヘイトスピーチ | | 検索 |
| すべて | 本文あり | ▼ 詳細検索 |

「SNS ヘイトスピーチ」で検索
→4件しかヒットしない。
もっと文献がありそうな気がするのだけれど…



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

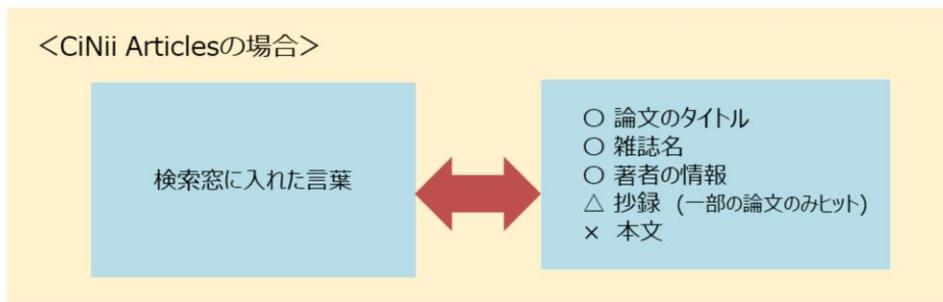
検索例題としてはこちらです。日本語資料を対象に、「SNSとヘイトスピーチの関係性について」とうテーマで先行研究調査を行います。まず思いつく2つのキーワード「SNS」と「ヘイトスピーチ」を入力して検索してみたところ、4件のみのヒットでした。

本当にこのテーマの論文はこんなに少ないのでしょうか？
この後、いくつかのポイントを解説しながら、検証していきます。

ポイント1：データベースの検索方式

CiNii Articlesは単純なキーワード検索方式

検索窓に入れた言葉と、論文タイトルなどで使われている言葉が完全に一致すれば、検索結果として返ってくる。



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

まず1つ目のポイントとして、データベースの検索方式です。

CiNii Articlesは単純なキーワード検索方式のデータベースに分類されます。入力したキーワードそのものが、論文タイトルや雑誌名、著者の情報に入っていればヒットします。

入力したキーワードと少しでも違うとヒットしません。意味が似ているとか、そういったことは全然考慮してくれません。

ポイント1：データベースの検索方式

完全に一致しないとヒットしないとはどういうことか

例えば以下の論文だと…

「SNS ヘイトスピーチ」→ヒットしない

「ツイッター ヘイトスピーチ」→ヒットしない

「twitter ヘイトスピーチ」→ヒットする

人の目で見れば、
関係のある論文なのは明らかなのに…



品詞タグを利用したTwitterにおけるヘイトスピーチの検出 (知的環境とセンサネットワーク)

渡辺 創, Bouazizi Mondher, 大槻 知明

電子情報通信学会技術研究報告 = IEICE technical report : 信学技報 116(407), 7-12, 2017-01-19

大阪大学リソルバ

大阪大学OPAC

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

例えば、画面上に表示されているこの論文についてみてみます。

「SNS スペース ヘイトスピーチ」や「カタカナのツイッター スペース ヘイトスピーチ」ではヒットせず、「英語のtwitter スペース ヘイトスピーチ」とするとヒットします。

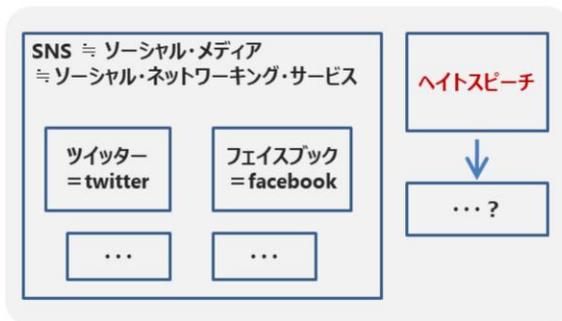
単純に、論文のタイトルに含まれているのが英語のtwitterですので、英語でtwitterと入力しないとヒットしないわけです。

CiNii Articlesに限らず、文献検索のデータベースでキーワード検索する場合、こういう方式で検索されることが多いです。

不要な検索結果は減りますが、必要な結果も見逃してしまう恐れがあります。そのため、ポイント2のような工夫が必要となってきます。

ポイント2：キーワードの検討

キーワード検索方式の場合、キーワードの選択がとても重要
同義語、類義語、上位/下位語を検討する



自分でうまく思いつかないときは、
参考図書などを使って探してみましょう。

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

先ほどの例でも見たとおり、キーワード検索方式の場合、キーワードとして何を選択するかが検索結果に直結してきます。

そのため、キーワードをしっかりと検討することが大切です。これが2つ目のポイントです。

同じ意味のことばである同義語や、似た意味のことばである類義語だけでなく、そのことばを含むより広い概念の上位語、そのことばの中に含まれるより狭い概念の下位語なども検討してみましょう。

たとえば、SNSというキーワードは「ソーシャル・メディア」「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」という表現がされているかもしれません。また下位語としては、ツイッターやフェイスブックといった、具体的なサービス名称で表現されていることも考えられるでしょう。

そしてさらに、それぞれのサービス名称についても、言い換えや表記方法の違いを考えてみる必要があります。

次にヘイトスピーチというキーワードについてです。自分で考えてみたけれど、他のキーワードがうまく見つからないというときは、参考図書などを使って探してみるといいでしょう。

ポイント2：キーワードの検討

百科事典や辞書類（冊子/オンライン）

- 例：JapanKnowledge Lib 複数の辞書・事典をまとめて検索できる
- －附属図書館Webサイトのクイックサーチ中「データベース」タブから
 - －自宅から使うときは、附属図書館Webサイト右側の  から

関連する単語を視覚的に得ることができるツール

国立国会図書館「リサーチ・ナビ」

<https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

検索結果「キーワード」タブから関連キーワードとマップを得られる

科学技術振興機構(JST)「シソーラスmap」

<https://thesaurus-map.jst.go.jp/>

科学技術分野の専門用語を中心に

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

参考図書とは、百科事典や辞書類などのことです。

定義を調べるときに使うというイメージがあると思いますが、同義語や類義語などを探すのにも便利です。自分の研究テーマを含むような専門事典がある場合は、それを使うのが望ましいでしょう。

参考図書にはオンラインで使えるものもあり、例えばJapanKnowledge Libは複数の辞書・事典をまとめて検索できます。

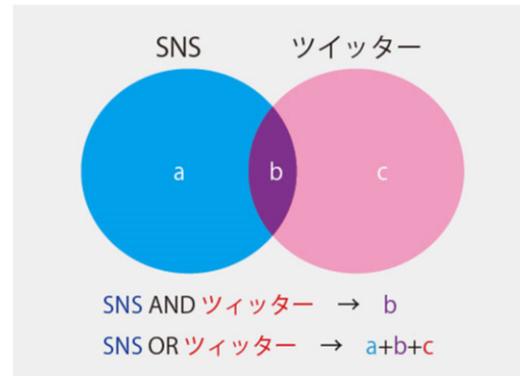
JapanKnowledge Libは、自宅からも使うことができます。附属図書館Webサイト右側の「キャンパス外から電子リソースを使う」からアクセスしてください。

他に、便利に使える無料ツールとして、国立国会図書館リサーチナビや、科学技術振興機構のシソーラスmapがあります。

ポイント3：論理演算（AND/OR など）

| 種類 | CiNii Articlesでの入力方法 |
|-----------|---|
| AND 検索 | SNS△ツイッター 「SNS」と「ツイッター」両方の キーワードを含む資料を検索 |
| OR 検索 | SNS△OR△ツイッター 「SNS」もしくは「ツイッター」の どちらかのキーワードを含む資料を検索 |

※「△」はスペース（半角でも全角でもOK）



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

3つ目のポイントは、論理演算です。論理演算を駆使することで、集めたキーワードを有効に活用できます。

最もよく使う論理演算としては、AND検索とOR検索、この2つがあります。AND検索は入力した全てのキーワードを含むもの、という検索です。CiNii Articlesではキーワードの間にスペースを入れるとAND検索になります。AND検索は、一般的な検索のイメージとして皆さんがお持ちの検索方法かなと思います。

もう一つはOR検索です。こちらは入力したキーワードのどれか1つを含めば良い、という検索方法です。CiNii Articlesではキーワードの間に「スペース 大文字のOR スペース」と入力することで、OR検索ができます。

単純に言いますと、AND検索は検索結果を減らすことにつながり、OR検索は増やすことにつながります。

ポイント3：論理演算（AND/OR など）

キーワード検索方式

不要な論文のヒットは少なくなるが、必要な論文も漏れてしまう恐れ

OR検索を有効に使用する

ポイント2で得た同義語、類義語、上位/下位語をOR検索で活用する
より漏れが少ない形での検索ができる

データベースによって、
・使用できる論理演算の種類
・その論理演算の入力方法
は異なります。
新しいデータベースを使う時は、ヘルプを確認してみると良いです。



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

ポイント1で見たとおり、キーワード検索方式のデータベースは、自分で入力したキーワードに完全に一致しなければヒットしません。そのため、不要な論文のヒットは少なくなるのですが、必要な論文も漏れてしまう恐れがあります。先行研究調査では、「できるだけ広く・漏れなく」論文を探すことを目指すので、これでは少し問題がありますよね。

その問題点を補うことができるのがOR検索です。ポイント2で得た複数のキーワードをOR検索で活用することで、より漏れが少ない形での検索ができます。

データベースによって、使用できる論理演算の種類や入力方法が異なってきます。新しいデータベースを使うときは、ヘルプページやマニュアルを確認していただくことをお勧めします。

検索例題を実際にやってみよう

検索例題：

SNSとヘイトスピーチの関係性についての先行研究調査

—対象の雑誌論文はひとまず日本語のもののみ

—使用するデータベースはCiNii Articles

<https://ci.nii.ac.jp/>

・検索式の中の「△」はスペース。半角でも全角でもOK。

・CiNiiでは「・」は無視されます。「ヘイトスピーチ」と「ヘイト・スピーチ」の検索結果は同じです。

・CiNiiでは()で囲んだ箇所はグループとなって、検索式上で優先されます。

・ヒット件数は2020年9月18日時点

検索式①「SNS△ヘイトスピーチ」

The screenshot shows the CiNii search interface. At the top, there are three tabs: '論文検索' (Article Search), '著者検索' (Author Search), and '全文検索' (Full Text Search). The search input field contains the text 'SNS △ヘイトスピーチ'. To the right of the input field is a '検索' (Search) button. Below the input field, there are two buttons: 'すべて' (All) and '本文あり' (Full Text Available). To the right of these buttons is a dropdown arrow and the text '詳細検索' (Advanced Search). A yellow circular badge with the number '4件' (4 items) is overlaid on the search results area.

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

先に少し触れましたとおり、「SNS スペース ヘイトスピーチ」では4件しかヒットしませんでした。これはSNSとヘイトスピーチのAND検索をしていますね。

検索結果を増やすために、まずはSNSのほうの同義語、類義語、上位/下位語を検討します。

検索例題を実際にやってみよう

改善策の検討

- ・件数が明らかに少ないので、「SNS」の同義語、類義語、上位/下位語を検討
- ・同義語として、「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」と「ソーシャル・メディア」
- ・とくに広く使われている「SNS」としてtwitterとfacebookを下位語に想定。もれなく探すため、日本語表記と英語表記を両方キーワードに入れる。

検索式②

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△ヘイトスピーチ

6件

「SNS」のキーワードの広げ方としては悪くなさそうだが…

- ・検索式「SNS」→約6,000件
- ・検索式「SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook」→約11,000件と倍近く増加

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

SNS自体の言いかえを、ソーシャル・ネットワーキング・サービス、ソーシャル・メディア、と2種類用意しました。また、とくに広く使われているSNSとして、twitterとfacebookも使ってみましょう。日本語論文であっても、twitterやfacebookは、英語表記とカタカナ表記の両方が使われる可能性があるのでどちらも候補に入れます。

そして、全てを「スペース 大文字OR スペース」でつなげます。()でくくると、その部分をグループ化することができます。ここまで考えたSNSのグループとヘイトスピーチとのAND検索という形で改めて検索してみます。そうすると、結果は6件でした。残念ながらあまり増えていませんね。SNSだけで検索すると約6000件、先ほど考えたSNSの同義語グループで検索すると約11000件と倍近く件数が増えるので、「SNS」側のキーワードの広げ方としては悪く無さそうです。ですので、次は「ヘイトスピーチ」のほうのキーワードを広げることを考えてみます。

検索例題を実際にやってみよう

改善策の検討

- ・「ヘイトスピーチ」側のキーワードを広げることを考える
- ・自分でうまく関連キーワードを思いつかないときは、ポイント2で紹介した参考図書やツール類を使用
- ・国立国会図書館リサーチ・ナビで「ヘイトスピーチ」を検索し、キーワードのマップを見たところ、「差別」「人権」「表現の自由」「言論の自由」といった関連キーワードを入手できた。

検索式③

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△(ヘイトスピーチ△OR△差別△OR△人権△OR△表現の自由△OR△言論の自由)

50件

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

自分では同義語などが思い浮かばないときは、ポイント2で紹介した参考図書やWebサイトを使うと良いでしょう。

例えば、国立国会図書館リサーチナビで、「ヘイトスピーチ」のキーワードのマップを見てみたところ、「差別」「人権」「表現の自由」「言論の自由」といった関連するキーワードを入手できました。

これらを使って改めてOR検索を行ってみます。

ヘイトスピーチのほうもスペース大文字ORスペースでつなぎ、()でくくってグループ化すれば良いですね。そして2つのグループをスペースで繋いでAND検索します。

そうすると50件でした。ある程度増えましたね。

検索例題を実際にやってみよう

改善策の検討

・検索結果の論文タイトルを眺めていると「規制」も関連キーワードとして使えるのではないかと思われた。

SNSを規制する議論が起こる背景の1つとしてヘイトスピーチがあるのではないか、という推測。

目 表現の自由の保障切り下げを危惧：ネットでの誹謗中傷を巡るSNS規制の論点

森 亮二

新聞研究 (827), 46-49, 2020-08

大阪大学リソルバ

大阪大学OPAC

目 ドイツのSNS対策法：法規制と表現の自由 (特集 ネット上の人権侵害：法規制と表現の自由)

検索式④

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△(ヘイトスピーチ△OR△差別△OR△人権△OR△表現の自由△OR△言論の自由△OR△規制)

106件

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

ここで終えてもいいのですが、もう少し検索結果を広げる方法を考えてみましょう。その際にヒントになるのが、検索結果に出てきている論文タイトルなどです。

検索結果を簡単に見ていくと、他にも使えそうなキーワードを得られることが多いです。ここでは「規制」も関連するキーワードとして活用できそうなので使ってみます。

ヘイトスピーチのグループのほうに「規制」をORで追加して検索してみると、106件まで増えました。

最初の4件に比べるとかなり増やすことができました。これでもまだ少ないと思われるときは、ここまで紹介した方法を使って検索式をさらに改良してみてください。

これで検索例題は終了です。

文献データベースを使っての検索は、キーワードや検索式を練ることがとても大事、ということを感じていただけましたか？

データベース検索で心がけると良いこと

予測と検証

自分の直感的な気付きを大切に。

「このキーワードでこれだけしか文献が無いのはおかしい」

→上位/下位語、類義語、同義語を探してみる（ポイント2、ポイント3）

「このキーワードでこんなにたくさん文献がヒットするのは何か変だ」

→検索結果を眺めて、自分の予期しないヒットの仕方をしていないか確認。

キーワードを変更したり、AND検索で検索結果を絞り込んだり。

検索式と件数などを記録しておく

記録しておくことで、検索式の調整が簡単に

しばらくしてから、先行研究調査を再度行う際にも便利

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

データベース検索のTipsとして2つご案内しましょう。

1つ目は、予測と検証が大事、ということです。

自分が思っていたよりも、検索結果が少ない・多いという気付きは大切にすると良いです。検索結果を確認するなどして、キーワードや検索式を改良してみましょう。

2つ目は検索式と件数を記録しておくのがおすすめ、ということです。

いろいろな検索式を試していると、どの検索式で良い結果が得られたのかよく分からなくなってきました。各検索式での件数を随時記録しておく、検索式の調整を行いやすいです。

そして、先行研究調査は1度行って終わりではなく、研究を続けていく場合、定期的に調査が必要なタイミングがあります。検索式を記録しておけば、再調査をスムーズに行えます。

選別作業：検索式の検討が終わったら

検索結果一覧から自分の目で選別

論文のタイトル、抄録（あれば）、掲載された雑誌 などをもとに無理に検索式で絞り込みすぎると、有用な論文を取りこぼしてしまうことがある。100～200件程度ならば、人目でじゅうぶんに選別可能。

「すぐに入手できるかどうか」は選別基準に入れないこと

データベース画面上で見るとPDFファイルがあるものに引っ張られがち
→いったん検索結果を印刷したり、エクセルのリストに出力したりするほうが、まんべんなく目を通しやすい

選別作業が完了して初めて入手作業へ進む！

具体的な入手方法についてはきちんとスタート②へ

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

ある程度納得できる検索式を得られたら、検索結果からの選別は自分の目で行います。

無理に検索式で件数を絞り込みすぎると、有用な論文を取りこぼしてしまうことがあります。100～200件程度ならば、じゅうぶんに選別可能ですので絞り込みすぎないようにしましょう。

論文のタイトルや掲載された雑誌名などをもとに選別していきます。CiNii Articlesは論文の要約にあたる抄録が含まれているものもありますので、抄録を参考にして選別するのも良いでしょう。

その時に、「入手できるかどうか」は選別基準に入れないでください。データベース画面上ではどうしてもPDFファイルがあるものに惹かれがちです。

ただ、先にもお伝えしました通り、PDFファイルが読めなくても重要論文である可能性も大いにありますので、入手可否はひとまず考えずに選別作業を行きましょう。

そして、選別作業が完了してからはじめて、実際の入手作業を行います。この入手作業については、2つ目の教材「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」でご紹介します。